

『秋田県農業法人協会 R 2 新春放談会』

意見・発言概要



日 時：令和 2 年 1 月 9 日（木）午前 10 時開会
午後 5 時 30 分閉会

会 場：秋田市：「ホテルメトロポリタン秋田」



『秋田県農業法人協会 R 2 新春放談会』開催概要

1. 趣 旨

会員が抱えている生産・経営の課題等について、会員・賛助会員が徹底的な議論を交わし合い、学び、相互連携を深め、その解決策や今後の方向性を模索するため、秋田県立大学の共催のもとに、新春放談会（生産強化・経営強化研究会）を開催する。

本放談会で出された意見については、必要に応じ関係機関・団体等に対する提言への資とするほか、（公社）日本農業法人協会が実施する政策提言に対する本協会の意見として提案する。

2. 主 催 秋田県農業法人協会

3. 共 催 公立大学法人秋田県立大学

4. 開催日時 令和 2 年 1 月 9 日（木） 午前 10 時から 午後 8 時まで

5. 開催場所 『ホテルメトロポリタン秋田』 秋田市中通 7-2-1 TEL:018-831-2222

6. 日 程

（1）開会挨拶 農業法人協会 宮川会長 10:00 開会
秋田県立大学 金田学部長

（2）新春放談 10:15～17:30

◇ メインテーマ 「2020年への経営展望と課題を放談」

○ 助言者 公立大学法人秋田県立大学

□ 内 容

◎ 若手会員近況報告

《10:15～10:30（15）》 座長：農業法人協会 宮川会長

① 「若手経営者の今後の経営戦略」

《10:30～11:45（75）》 座長：農業法人協会若手会 柴田会長

・ 情報提供 （有）アグリ川田 代表取締役 川田 将平 氏

・ （株）秋田ニューバィオファーム 代表取締役 齋藤 英則 氏

・ 意見交換

◎ 会員近況報告

《12:45～13:15（30）》 座長：農業法人協会 宮川会長

② 「良質かつ低廉な農業資材の調達の在り方」

《13:15～14:30（75）》 座長：農業法人協会 宮川会長

：情報提供 農林水産省生産局技術普及課 課長補佐 金子 勝 氏

：意見交換

③ 「自然災害への対応・支援制度の在り方」

《14:40～15:40（60）》 座長：農業法人協会 桜田副会長

：情報提供 日本農業法人協会 政策課長 吉田 智 氏

：意見交換

④ 「近年における農耕地土壌の変化と持続的作物生産に向けた対応」

《15:50～17:20（90）》 座長：秋田県立大学 金田学部長

：情報提供 秋田県立大学生物資源科学部 学部長 金田 吉弘 氏

：意見交換

（３）開会挨拶 農業法人協会 宮川会長 17:30

（４）情報交換・交流会 17:45～

（５）全日程終了 20:00

『秋田県農業法人協会 R2 新春放談会』 ～ 2020 年への経営展望と課題を放談～ 意見・発言概要

【開会挨拶】

秋田県農業法人協会 宮川会長

今回の新春放談会が当協会新年最初の事業となる。前々回から県立大学と合同で開催してきたが、3月に金田先生が退任されるので、テーマの一つとしてご指導いただくほか当協会に対する思いや要望もお話しいただく。

農業は人手や後継者不足等の根深い問題に直面している。当協会も設立26年を迎え、我々の活動が成果として現れるようにしたいので、今日は大いに意見を出し合い今後の活動に活かしていただきたい。



公立大学法人秋田県立大学 金田学部長

2018年度の食料自給率が37%に落ち込み過去最低水準だ。食料自給率の1%は国民126万人が1年間に消費する食料に相当するといわれている。我々の生命生存に最も関わる食料が非常に危機的状況にあることをしっかり受け止める必要がある。



ラグビー日本代表がワンチームで活躍したが、ワンチームは専門性の異なる人達が一つの目標に向い力を合わせる事だと思う。農業法人協会のように色々な専門性をもった人達が力を合わせて色々な知恵を出し合っていくということが令和の時代に求められると思う。ワンチームの意識で知恵を出し合いながら今後のヒントが出ることを期待する。

【若手会員近況報告】

〔正直農園／柴田社長〕今年度から若手会の会長を務めている。能代市は白神ネギの産地で昨年は5.4haほど作付けた。3年程前から外国人技能実習生を受入れている。今年は青果物が豊作のため単価で大変苦戦した。今年はより作柄の良いものの品質も良いものを目指したい。





〔佐藤ファーム／佐藤社長〕米の生産販売を行っている。どこでも後継者不足のようで地元の零細企業にとっては大変厳しい状況だ。我々農業者が地元企業と手を組み大手への対抗手段を考える必要を感じる。消費の観点からも地元で秋田の米や野菜を食べるよう何か手を打つべきだ。生産面も強化していきたい。

〔東北バルブ／高田副所長〕当社の課題は人材だ。働いている方の意見や要望を生産にどう結び付けていくか、設備が整っていても働いている従業員がしっかり育たないと生産の向上にも繋がらない。今日は皆さんの貴重なご意見を聞かせていただく。



〔秋田ニューバイオフィーム／齋藤社長〕昨年5月に代表取締役役に就任し、まずは経営の安定化を重視してきた。既存店舗は前年並みの売り上げで推移し、加工も昨年並みの売上・出荷量で推移しているが、このまま守りの経営では生き残れないと考えている。今年はいろんな事にチャレンジしたい。

〔藤岡農産／藤岡社長〕昨年12月に代表取締役役に就任し、経営を勉強している。水稻面積は65ha程で年々面積が増えている。輸出に2年ほど前から取り組んでいるが単価が低い。今後補助金を活用して輸出がどのように拡大していくのか勉強したい。



〔アグリ川田／川田社長〕耕作面積は180ha程だ。昨年枝豆は1割程増収したが単価が低かったので、販路の開拓を進めたい。米は安定し地元になたな販路ができそうでそちらに注力したい。人材育成では会社としての制度作りを進め、社内で人材を育成し従業員が夢をもって働くことができる環境を整備したい。

〔ファーム夢未来／石川代表〕当社は私含め40代が2名、30・20代が1名ずつの4名で業務にあたる。30代と20代の社員は1年目・2年目なので私が現場に出ることが多い。今後は冬場の仕事をどうするか課題だ。



【テーマ1】若手経営者の今後の経営戦略

- ◇ 座 長 農業法人協会若手会 柴田会長
- 情報提供 (有) アグリ川田 川田社長
(株) 秋田ニューバイオファーム 齋藤社長



【柴田座長】まずは、日本農業法人協会の吉田政策課長様から全国の雇用の問題や動向について情報提供を願う。

〔日本協会／吉田課長〕雇用問題は地域色がある。人の雇用は経営者の腕にかかっている部分が非常に大きいと思う。そこに力を入れて環境を作っている会社は周りの会社が雇用に苦しんでいてもなぜか地域でしっかりと人を集めて育てているという事例をたくさん見ている。農業への人の集まり具合は非常に厳しいことは間違いない。外国人の雇用に目を向ける農業法人が多くなっている。どのように労働力、人材を確保していくのか大きな経営課題の一つだ。



それぞれの地域それぞれの経営理念の中で人を育て、人を確保していくこととなる。外国人は新しくできた特定技能制度では、基本的には労働力。雇用問題は単純労働力である外国人の部分と今後会社を引っ張っていく経営者等としての日本人労働力の確保という2つ目線で見えていく必要がある。

【柴田座長】販売面の意見聞きたいので、桜田社長よりご意見を頂戴したい。

〔米道ふたつ／桜田社長〕当社はおむすび屋のシェアが非常に高く大変危険な状況にあるが、販売面では相手の要望をどのように実現させるかということを常に意識している。削り加減をどうするかとかとてもデリケートな話だが、マーケットインを目指している状況だ。一般的に稲作は作ったので買ってくださいというのが大概だが、これからはこのような努力も必要だ。

【柴田座長】 田村代表は何か取り組み事例に関して感想はあるか。

〔中仙さくらファーム／田村代表〕 川田社長を見て事業継承は早くするべきだと感じる。社長になって次の手次の手を打っているように感じ、当法人もできるだけ早く事業継承したいと思うが、相手があつてのことでどう人材育成をするかというところに戻ってくる。飲み会に参加しない従業員は評価を下げるであつたが、人を育てるには良い取り組みであると感じた。我々は人材評価を数字で表すことがなかなか難しい。全員が経営者であっても困るし全員が生産者であっても困る。やはりバランスが大切だ。若い人を育てることが必要だ。

齋藤社長のところはある程度成熟した農業法人であると言え、それを引き継いだ社長はこれから苦しむのではないかと感じたので、東京で飲食店をやる大変さや秋田との違いがあれば教えてほしい。

〔秋田ニューバイオフィーム／齋藤社長〕 以前は池袋や新宿にも店舗があつたが今は品川のアンテナショップだけだ。飲食店はそこに人がどれだけ流れるか立地が大部分を占めるので、そこに気をつかわないといけない。秋田駅トピコでやっている立ち飲みバー等についても、いくら駅でも人がこない時はこない。来るときは集中してくる。これは品川でも同じような流れだ。

どれだけ立地の良いところに店を構えることができるか、ライバル店がいるとしても立地が良ければ皆繁盛することもある。当然立地が良いところは地代が高いため、地代をペイできるような業種でなければならないので、なかなか厳しい環境だ。

【柴田座長】 人材育成の一環として、川田社長から取り組み内容についてもう少し深掘りの話をしてもらう。

〔アグリ川田／川田社長〕 これまではボーナスも含めて社長のさじ加減一つだったが、社員の立場からすると、自分がどうしてこのボーナスなのか、どう頑張ったから昇給・減給したのかがルールとして明確でないといけない。人事評価に活かしたのは、本人評価と組む相手の評価、役員評価の３段階で評価している。役員は常に一緒にないので、一日の作業面積量や燃料費など数字に基づきやっている。

職域を一般職層・指導職層・役職層と３つ分けて、新人等の経験の浅い一般職は、技能や知識ではなく積極性や協調性等の人間性で評価している。職域によって評価するポイントを変えている。

数年後にどのくらいの給与がもらえるかがわからないと安心して働き続けることができない。安心して長く働くことができないとノウハウも蓄積されないしできる人間にしわ寄せがいくので、ブラック企業となり負の連鎖となる。給与体系を明示することで将来ビジョンが立てやすくなり、目に見えるやりがいを与えている。会社の成長を目指すには必要なことだが、これを維持するのは大変だ。

【柴田座長】従業員の将来を数字で明示することはなかなかできていないと思う。今後の参考にさせていただきたい。

新たに代表取締役役に就任した藤岡社長から、現在の経営課題や今後の展望についてお話いただきたい。

〔藤岡農産／藤岡社長〕当社は米1本でやっており今のところ生産に関して人が足りない状況にはない。ただ、従業員も毎年年をとるので、何人か新たに雇用し様子を見ながら育てることも必要だ。東京に1人営業担当を配置しているが、不測の事態が生じた際に代わる人材がいなく、併せて育てなければならない。

川田社長は外国人の雇用を考えているか。

〔アグリ川田／川田社長〕日本の労働法や慣習に関する理解や地主から借りている立場から地主への対応等に少し不安もあるので、日本人で対応できるならば楽なのかと思う。冬場はハウレンソウも作付けしているが規模が小さいので今の段階では時期尚早だ。

【柴田座長】佐藤ファームの社長は何かあるか。

〔佐藤ファーム／佐藤社長〕今の従業員は給料よりも休みを求めている。私は経営者であり現場監督者となっているが、このような従業員を指導者にするためにどうモチベーションを上げてやるか悩ましいところだ。指導者にしたい従業員から「自分はそうものを求めている」となりそうで、何か良い方法を教えてほしい。

〔アグリ川田／川田社長〕特に若い人は休みが多い方がいいとしている。農業という仕事柄、長い目で見ると見るしかないのではないかと。役員等からの指摘ではなく、ある程度自分の裁量に任せて、その結果をフィードバックしながらうまくいかなかったことを指摘し、徐々にストレス耐性を上げていくことが一番の近道ではないか。

【柴田座長】大和農園の大塚社長、今まで色々な意見が出たが、何かアドバイスを願う。

〔大和農園／大塚社長〕私のところは従業員23名いる（正社員は5名、経営者2名）。課題は人件費の高騰だ。当社の経営は野菜だが、その単価は100円以下だ。人件費は4割を超え経営が非常に厳しい状況だ。

人事制度の導入と雇用環境の整備が非常に大切であると感じた。雇用に関してはハローワークの活用や新卒、シニアの取り込みだけでは足りなく、外国人の実習生の受入れを行う予定だ。人件費を賄うために効率的な仕事の仕方を取り入れて、色々な方法を組み合わせていかなければいけないと感じた。

【柴田座長】 須田社長から何かご意見はあるか。

【須田商事／須田社長】 雇用の問題は一番大切で色々思い悩みながらやってきた。働き方改革で大変だが、経営をした以上は問題を乗り越える必要がある。賃金が安いと思う従業員には、売上や費用の関係を私から明確に話し教えて、賃金をあげるためにはどうすべきかを従業員にもわかってもらい、要望には応えていかなければならない。生産に対して費用をどう抑えていくか自分なり考え、従業員と一緒に作業をして経営を継続していくしかない。

【柴田座長】 最後に総括として、金田学部長より願います。

《県立大学／金田学部長》 県大では卒業生の3割を県内に残したいという目標を掲げている。1年生の必修科目を受け持っている中で、宮川会長に90分の授業をしてもらった。学生のほとんどは、農業に対して作業としかとらえていない。このような貴重な話は自信をもって法人協会としてどんどん外にアピールしてほしい。現場の実際の話をもっと学生に伝えてもらえば、学生の秋田の農業を捉える見方が違ってくるのではないかな。今、法人協会に大学に来て説明会をしてもらうイメージが湧いている。

農業法人の基盤は技術力だと思うが、技術をどうやって継承していくか、先輩や先祖の時代の技術を若い人たちにどうきちんと伝えていくかが大事だ。ぜひ法人協会としても培ってきた技術、見る・触る、そしてそれを判断する力を会員の皆さんの情報共有の場でしっかりと継承してほしい。

今、就職戦線が早いので、それに対応して情報を伝えることを大学としてもやっていきたいし、皆様からも思いを常に抱えていただいてぜひ大学に来て伝えてほしい。すぐには伝わらないかもしれないが、秋田でいろんなことを頑張りたいという学生はたくさんいる。直接学生に伝えてそれを継続していただくことが、人材を一人でも輩出することに繋がると思う。



【会員近況報告】

〔米道ふたつ／桜田社長〕首都圏でおむすび屋をチェーン展開している会社がメインの取引先だ。国内に45店舗ほどで海外展開もあり若干だが輸出も行う。ここ数年米価は高どまりで仕入れ値が高くなっている。農家は高ければいいが、外



食・中食の求めとミスマッチが発生しているようであり、高どまり状態では消費離れを危惧する。

輸出に関しては、当社従業員が取引先の海外研修に行った際、特にニューヨークやニュージャージーでは食べ物の単価が非常に高く、ビジネス街で働く人は昼食時に普通のレストランで1,500円～2,000円だが、おむすびだと500円程度で昼食がとれ、これからどんどん伸びることを従業員が現地で聞いてきた。周りの農家の高齢化によるリタイアに伴い経営面積の拡大が進むので、今後は取引先を拡大していきたい。

〔中仙さくらファーム／田村代表〕米、大豆、りんどう、ぶどうを生産している。

りんどうは労働力が少しかかり過ぎで、従業員からも生産を抑えると採算が合うのではとの提案を受けている。ぶどうは生産を始めて実質3年目で販売はせずに近隣に配るだけなので、今後販売を考えていく。農家レストランを辞めたがまたやりたくなるものだ。実際はやることはないが。どんな小さな食堂でもレシピがあるが同じものを作っても作る人によって味が違う。これは不思議なもので人間性が出るではないか。



話は飛躍するが、法人もトップの人間性が出るのが経営と思うので、間違った方向にいかないようにしたい。

〔大和農園／大塚社長〕ネギが13ha、チンゲンサイがハウスで2haほど生産している。JA部会長をしている白神ネギ全体は12月末時点で販売金額13億円、昨年度は15億円だったが今年度は14億円程度だ。個人では前年比15%減少



で、原因は春先の低温と干ばつによる遅れと、夏場の異常高温による生育不良だ。作付面積を増やしてカバーしている。チンゲンサイも売上が落ち豊作貧乏で野菜全般単価が安い。

異常気象への対策が必要で、露地ではハウスへの転換が一つの方法だ。有機肥料の使用により収量が安定するようだ。作物に適し栽培環境等にも考慮した肥料の活用が必要で引き続き勉強し対応したい。販売は、契約栽培を増やすことや収入保険制度へ加入し、販売不振等の経営リスクに対応したい。

〔須田商事／須田社長〕稲作専門で作付面積は以前から大きく変わらず単収を上げることを意識している。消費者は有機栽培や化学肥料を使っていない農作物を求めるなど非常に勉強している。消費者は心変わりしやすいので友達に誘われるとすぐそちらになびく。長い経験から消費者ニーズを踏まえた食味の良い米を作り販売したい。取引先も比較的安定しており、単収をいかに上げ食味の良い米を作り販売するかが課題だ。



〔相川ファーム／菅社長〕昨年30代の男子1名と女子1名が入社した。先ほど若手経営者から若い人の考え方をどうやって会社へ吸収していくか、働きやすい環境を作り長く働いてもらうことが非常に大事だと感じた。昨年末に従業員の誕生会を兼ねた忘年会を開催し、大変盛り上がった。明日も誕生会兼新年会の開催を大変楽しみにしている。



地球温暖化を前向きに捉え、冬期間の戦略作物のセリが地区内にあるので、売上の増加等のために前向きに導入を検討していきたい。人口減少ばかりでなく若い人の就農が厳しくなるので、今回入社した2人の意見を聞きこちらの要望も聞いてもらいながら、若い人がどんどん入社してくるような環境整備を行いたい。

〔北鷹ファーム／藤嶋代表〕設立して8年目を迎え経営面積は150haを超える。水稻・大豆・そばは労働力をうまく配分しながら栽培している。冬期間は、桜田社長をはじめ二ツ井地区の方々の協力を得てウドの株増殖を行い現在1haほどだ。来年2カ所50haほどの基盤整備を予定する。付加価値を付けた作物として令和3年には4～5haほど作付けし冬期間に取り組みたい。



組合員が高齢化により働きにこないので、従業員を雇用し対応している。いずれ組織変更を考えている。今後の営農計画に産地交付金の有利な方向での作付けを考えている。

〔芹田農園／芹田代表〕いぶりがっこの原料を作るようになって6年が経過した。製造業の人たちに安定した品質のものを提供しようと頑張ってきたが、去年は天気が良すぎて生育が良く最悪な結果となったのは初めての経験だ。今年は製造業の方と相談し生産の体制を変えていく。いぶりがっこ原料供給ネットワークという組織で原料生産を安定的にしようとやっているが、いよいよその使命が正直重くなってきた。



秋田に生産者を増やそうしているが、安定した製造業への供給、安定した所得補償に繋がらないと若い人は見向きもしないのが現実だ。

70歳を目の前に若い人たちにバトンタッチも考えており、その若い人たちが安定的にやれる仕組みを残し引き継いでもらうため、積極的に輪を作り上げようと頑張っているところだ。

〔正八／宮川社長〕男鹿市で県のメガ団地（ネギ）に取り組み今年度で3年目を迎える。この間今までにない投資をしてきた。去年の台風19号の影響で埼玉の圃場が大きな被害を受けた。1月末から組み立て直しを計画する。県外を含め圃場があらこちらにある中で、作業や労務管理等の離れたところの把握の仕方が経営上の最大の課題だ。



【テーマ2】良質かつ低廉な農業資材の調達の手続き

- ◇ 座 長 農業法人協会 宮川会長
- 情報提供 農林水産省 生産局技術普及課 金子課長補佐



【宮川座長】先日中国に行ってきた。機械は仕様が違うので単純比較はできないが、価格面はそんなに違いはない。肥料や農薬は安いという印象だ。日本の農産物は非常に繊細な作り方をしている、作り方が違うため中国の肥料・農薬をそのまま持ってくるのは難しい。海外の取組みを取り入れることも必要だが、日本は規制が多いのでまずは規制の緩和が必要だ。

中国の田舎では国をあげて農業振興を進めており、ドローンが自動で飛んでいる状況だが、地域による差が激しい。国が農家に還元し盛り上げる政策に変わってきて、農家の生産意欲が高いことに驚いたところだ。

【宮川座長】皆さんはどのように資材を購入しているか。水稻と野菜の社長から話を聞く。まずは水稻の桜田社長お願いします。

〔米道ふたつ／桜田社長〕農薬は基本的に安いところから購入し、肥料は取引先の関係で食味等の品質を求められるので安ければいいとはいかない。オリジナルの肥料を作ってもらい全量ではないが全農さんから仕入れている。圃場は平場も山間部もあり環境が異なるため肥料も変えることになるのでオーダー先も変えている。それを使ったものをどこに販売するかを最優先で考えるため、価格は優先度でいうと2番目で自分の想像したものを作れることが最優先だ。

輸出の話が先ほど出たが、将来的にはターゲットをどこに置くのかが重要になる。海外展開の場合は海外の商品との勝負となり安い資材の購入が必要になる。日本の国土を考えると果たして海外と競争して勝てるのか、土地利用型をどこまで進めるべきなのか。アメリカの1戸の平均面積が250haであり、規模の大きいところと競争する時にどうなるのか想像できないが、そこを精査して方向性を決めることが重要だ。

【宮川座長】農協をはじめ各社から肥料や農薬の注文書等のパンフレットが送付され、農家は価格等比較が容易になり使い分けている。野菜の大塚社長はどうか。

〔大和農園／大塚社長〕異常気象の中でどうやったら収量を落とさず、あわよくば増収できるかを考えている。肥料や農薬は非常に重要で基本的な考え方は費用対効果で、高価でも効果が高ければ積極的に活用する。資材メーカーはたくさんあり安くて良いものを選んで使う。異常気象に対応するため様々な部会等で資材を活用した効果等の情報を集めたり、自分も実証試験のようなこともやる。メーカーは自社商品のPRはするが、例えば、どの程度の冷害にどの程度の効果があるかというような実証はどこにもない。生産者が実証試験をするには負担が大きくやってくれる機関があれば非常に助かる。

【宮川座長】栽培に使う肥料や農薬等資材に関する研究はあるか。

《農林水産省／金子課長補佐》農研機構で栽培研究をしているが、確認はしてみるのが冷害に効果のある肥料の研究は聞いたことがない。生産性を上げるための品種等栽培方法がメインとなっているようだ。

【宮川座長】それぞれの農家の独自技術が研究を通じて実証されればと思う。災害対策としても使えるのではないか。

《農林水産省／金子課長補佐》スマート農業を推進しているので、AIを絡めた研究ができないかとも思うので、担当部署に繋げたい。

【宮川座長】省力化のところで一発肥料等があるが、費用対効果がどうなのか。全農さんでも勧めてはいるが、使っている方はどうか。

〔大和農園／大塚社長〕ネギの栽培では土の種類を選ぶとを感じる。省力化し人件費等の削減を目的に3年ほど使用したが砂丘地では効果が薄い。土質を選ぶが効果は高いようだ。プラスチック類で肥料をコーティングしているため、環境汚染問題が気がかりだ。

《県立大学／金田学部長》基本的には圃場の土の中にどれくらいの養分があるかということを基本に肥料を考えることが大切だ。秋田県では土壌に十分養分があるのに、野菜の吸収できる養分以上に肥料を与え養分過剰となっている事例が多い。特に、リン酸は過剰の事例が多い。また、カルシウム、マグネシウム、カリはバランスが大事で、カリが多すぎるとマグネシウム欠乏が起こるなど昔は考えられなかったことが今は起きている。

アメリカでは土壌診断が発達しており、日本でもこれからはそれぞれ農家が診

断をして、肥料の量等を決めるようにならなければならない。

〔芹田農園／芹田代表〕大根生産では土壌がどういう状態か把握しないと基本ダメだ。現在は安価に分析することができるので、それを元に施肥設計を立てる必要がある。私の畑は強酸性でこれだけを改善するには、石灰を入れれば安価で容易だが弊害を意識し実施しなかったが、代わりの資材を使用してかなり改善された。肥料の成分と土の中の微生物のバランスも大事で、トータルで考えてコストや成分のバランスも含めた対応が必要だ。野菜の大産地で1℃や2℃平均気温が上がれば病害虫被害への対応にてんやわんやしている。

研究機関も含めてトータル的な技術体系のサポートを国は行う必要がある。

【宮川座長】資材の買い方の工夫とか資材メーカー等への要望など、渡部代表は何かあるか。

〔樽見内営農組合／渡部代表〕資材をどう安くするか、価格は物の値段にどれだけサービスをのせるかだ。農協は注文書を提出して終わりで購入してくださいがない。2月に次年度計画が固まるが、農協の肥料・農薬の注文の締切は前年10月だ。農協の販売システムが今の農家の現況にあっていないので改善が必要だ。

【宮川座長】今、農協について話が出たので全農さんから願います。

〔全農県本部／山田次長〕肥料は、県内では77銘柄を5銘柄に集約して価格に反映しているが、まだ高いという声があると思う。農薬は10aあたり1キロという規格が出回っていたが、10キロ、40キロの規格を作りメーカーの工場から直接届けることで中間の物流経費の削減に努めている。

一発肥料は、水稻で考えるとJAグループとして15キロ袋の省力一発ということで提案している。全県で4万haを超える面積の普及ということで、15キロ袋での試算で価格は10%から20%のコスト削減だ。加えて追肥の労力の削減に繋がっている。

先ほど金田学部長等からもあったが、まずは土壌診断を行い生産者の圃場を理解いただいたうえで、我々やメーカーも含めて土壌に合った肥料を提案させていただく。



【宮川座長】一発肥料等の使用で削減となった労力と手で撒いた時の労力の比較が必要ではないか。

《全農県本部／山田次長》労働力をお金に換算するのは難しいが、人件費という一番コストのかかるところに行きつくのではないか。

〔樽見内宮農組合／渡部代表〕農協はネットワークがあるようでない。他社では端末から近くの店舗に在庫の確認を行うことができるが、農協では在庫なしで終わる。紙袋一つとっても高いという現実がある。

〔藤岡農産／藤岡社長〕農協からの購入はほとんどない。様々なメーカーから買っているが理由は簡単で安いからだ。安くてもできた作物に影響はない。むしろ良くなっていると感じている。当地域の農協も注文書を置いて終わりという状態で、資材メーカーとは違う。

【宮川座長】農協を利用していない方がいるということは、裏を返せば農協には将来のお客さんがたくさんいると読みとれる。農薬の大口規格の取組みに関して、県内の動向や今後伸びていくのか聞きたい。

《全農県本部／山田次長》昨年度の普及面積は8,800haで、今年度は11,000haを目標に取り組んでいる。県内での取り扱いは25品目25銘柄で、まだPRが足りないなのでこの後も推進していく。

《クミアイ化学／齋藤課長》農薬の価格の大半は開発費で、開発費は毎年上昇している。上昇分の吸収は企業の役割だと思う。価格低減できない中、労力費を掛けず省力化を目的とした農薬の開発に取り組んでいる。これまでの除草体系が2回・3回行っていたものが、効果の長いものを開発し1回で済ませることができないかなど、コスト削減に繋がると考えている。より高性能な作業形態・大規模形態に合わせた農薬の開発も進めている。生産者の皆さまから栽培面での様々な助言をいただくことが大事だと感じている。



【会員近況報告】

〔エスジー・ファーム／菅原取締役〕代表権は長男に譲り、法人では野菜が主だ。次男も本気で農業をやりたいとして入社することになり、今、各種免許の取得を目指している。先ほど資材の話が出たが、私は系統から購入している。全農さんに直接きてもらい、色んな提案や早急な取引、一発型の15キロ入りの肥料も去年から導入している。



〔ミツ農研／金社長〕スプラウト野菜といって、種を播いて1週間ほどで商品になるカイワレ大根等を栽培販売している。皆様の健康に寄与し医食同源、健康は食べ物からとの思いで生産している。最近では、洗わず、包丁を使わず、そのまま食べられる野菜、サラダができないかと色々と挑戦している。共稼ぎも多い中で、調理にかかる時間を短くしたい傾向があるので、そこをターゲットに今後の商品づくりを行いたい。



〔樽見内営農組合／渡部代表〕水稻面積100ha超を経営している。無駄なことが大好きで、今話題のAIとか合理化や効率化が嫌いだ。合理化や効率化を求めすぎると人がいない。人の作業がなくなれば村で働く人がいなくなり、村の人口が減る。そのバランスを考ながらやっている。

今はドローンを2機所有し今年も1機購入の予定だ。近隣の若い農業者を巻き込んで地域農業を一緒にやる・

協力する機会を立ち上げた。地域を取り込む組合になりたい。月に1回シンガポールへコンテナで当県の米等を輸出している会社の代表も務めている。



【テーマ3】自然災害への対応・支援制度の在り方

- ◇ 座 長 農業法人協会 桜田副会長
- 情報提供 日本農業法人協会 吉田課長



【桜田座長】意見交換では、政策提言に反映させるような内容にしたいと思う。最初に、埼玉で被害にあった宮川会長に願います。

〔宮川会長〕被害状況の把握の仕方が体系化されていないようだ。担当がちょっと行ってみようかという感じで動き出している。被害の大小に関わらず被害が発生した場合はどういった対処をするか、明確な仕組みづくりが必要だ。被害が発生した際、どこにどうしたらいいかわからなかった。その後の補填や支援も同様だ。収入保険制度は事業が上手くいっているときに加入していないと、災害時の収入が基準収入となる場合はメリットが出ないように感じた。被災稲作農家は特別対処があるのに畑作にはないので、同じ農業なのだという思いだ。

【桜田座長】被害にあった場合の迅速な対応だが、用排水の軽微な被害はたびたび発生しているが災害対策の基準に満たなかったりして、修繕に時間を要したり、直せなかったりしている。多面的機能支払制度を、災害発生時に活用することができないかと考えている。柔軟な対応が出来るようにしてほしい。

〔大和農園／大塚社長〕ネギ畑は砂丘地で坂道が結構あり、豪雨があるたびに傷んでしまい車の乗り入れが危険になる。そこで多面的機能交付金を活用し少しずつ簡易舗装を行ってきた。地元農家には喜ばれてきたが今年度から活用できなくなったがその理由がわからないし、活用できるように検討してほしい。

【桜田座長】担当は違うと思うが、農水省よりアドアイスがあれば願います。

《農水省／金子課長補佐》多面的機能については目的をもった交付金だ。気持ちはわかるがルールがあるので……。ただ、要望として現場で声があったと伝えたい。現場の声をどんどん広げてもらいたい。

〔後日回答〕

「災害時の復旧作業における多面的機能支払い交付金の取扱いについて」（令和元年１０月１５日付、農林水産省農地資源課多面的機能支払推進室長 事務連絡文書）

※ 異常気象後の応急措置として、農用地等に堆積した土砂や流木の撤去等について、組織活動及び広域活動組織の共同活動の対象としている。等



〔秋田共栄物産／鈴木部長〕情報提供として、農業用ハウス強靱化緊急対策事業があり、ハウス本体の補強ができるし防風ネットも対象だ。こうした事業も活用されてはどうか。

【桜田座長】災害に負けない準備をするという話がでた。基盤整備事業も進んでいるが、設計自体が５０年に一度の災害を想定した設計だが、近年の災害を見ると、５０年に一度の設計でいいのかと思う。

〔大和農園／大塚社長〕地区内の基盤整備に関して、風力発電は送電線を地下に埋設するが、埋設する時に地区には迷惑をかけないという話だったが、契約書がなかった。送電線が埋設された後に基盤整備事業が行われ、送電線の稼働を２日間止める必要がでたとき、送電線の民間事業者に賠償しなくならなかった。こうしたことは今後発生することが想定されるので注意すべきだ。

【桜田座長】基盤整備事業に関する問題が起きたという情報でした。自然災害は直接的なもの間接的なものがあるが、県立大の先生方でご意見はあるか。

《県立大学／金田学部長》今日は所用で参加していないが、アグリビジネス学科に災害の専門の教員も、生産環境学科にも教員がいるのでぜひ繋げたい。秋田でも色々なことが起きてくると思う。県立大も貢献できることがあると思う。

〔芹田農園／芹田代表〕収入保険に関して、経営的に安定していない場合等の基準収入は、地区等に参考になる価格があるのであれば、それを参考に経験によって８割掛けするとか考え方をもう少し柔軟にするべきだ。また、小規模の経営者や役員、個人事業主など、積み立てによる退職金制度である小規模企業共済制度のような充実した制度としてほしい。

【桜田座長】東日本大震災が発生した際、首都圏の取引先に東北自動車道が全く機能しなく商品が送れなかった。東京まで２トン車で運んだ経験がある。あれから

数年経過したが、未だ日本海側のインフラの整備が進んでいない。この改善を早急に進めてもらいたい。



【テーマ4】近年における農耕地土壌の変化と持続的作物生産に向けた対応

◇ 座 長 秋田県立大学 生物資源科学部 金田学部長

○ 情報提供 秋田県立大学 生物資源科学部 金田学部長



【金田座長】今日はいろんな議論の中で、肥料や気象災害の話が出てきた。農業の基本は土壌、土だと思っている。温暖化への対応という副題を付けたが、温暖化への対応を見ながら基本である土壌にどういった課題があるか見ていきたい。

まずは私の情報提供についてご意見を。放談会ですので何でもいいので話していただければと思う。

〔芹田農園／芹田代表〕科学的な成分だけではなく、土の中の微生物のバランスが大事だ。農薬がダメではなく農薬も肥料も必要で、少ない量で効果が上がる使い方をしなければならない。環境に負荷がかからないやり方が必要だ。我々だけではなく専門的な方の力を借りる必要性を感じた。今ある出来ることの最善を尽くして、土壌分析をして、何が足りなくて何がいいのか知らないのかをJAグループや資材メーカーは早急に協力してほしい。我々はそれを乗り越えていかなければ未来の農業はないし若い人に繋げることもできないと思う。

【金田座長】実際にはわからないことも多い。我々は微生物反応の結果を見ているが、どういう反応が起きてどういう微生物が活躍しているかは未知の世界だ。先ほどのカリとケイ酸についても、実際には微生物の反応も何かがあると思う。これからやっていかなければならない分野である。

全農さんも土壌診断を掲げているので、まずは自分たちの田んぼや畑にどれくらいの養分があるかから始めていただければと思う。

〔宮川会長〕土壌分析は、サンプルを出してから戻ってくるまで時間がかかる。手軽に早くできるようになればいい。分析結果のコメントは、いずれ理屈を知らないと自分でどうしてその肥料が必要なのか理解できないので、知識を持つことも

必要だ。

【金田座長】 土壌分析ですべての養分についてやる必要はないので、優先順位をつけてやるべきだ。乱暴な話だが、秋田の田んぼはP Hとケイ酸、畑はP Hとリン酸が優先と考えている。優先順位をつければもう少し早く分析結果を出せるのではないか。全農さんはどうですか。

《全農県本部／山田次長》 基本的に調べる項目が決まっていて、一つ二つ外したからと言って早めることは難しい。

〔エスジー・ファーム／菅原取締役〕 今、基盤整備を行っているが、設計の段階で土壌分析の結果が反映されてないのではないか。

〔大和農園／大塚社長〕 土壌分析の結果が基盤整備の設計に入っていなかったもので、地元の出荷組合が定期的にサンプルをとって調査を行った。

〔エスジー・ファーム／菅原取締役〕 初年度に稲が倒伏することがあり、もう少し早めに指導していただければよかった。

【金田座長】 実際の圃場整備は設計・施行・土木の分野で、栽培管理するのは農業分野のため合わないということが生じている。その他、土壌に関する意見等はあるか。

〔秋田共栄物産／鈴木部長〕 金田先生の話聞いて感銘を受けた。我々のコンセプトは、質のいい土壌でいかに根を張らせるかが非常に大事と感じており、肥料を売る前に提案している。多いものは抑え、足りないものは与える。いかに根が張りやすい環境を作ることができるか、これが良いものを作ることに繋がる。

【金田座長】 特に畑の場合、節約する勇気が必要で吸収量に比べてたくさんやりすぎているのは事実だ。やるのは簡単だが一度土にためてしまうと取り除くのは大変だ。まずはためないことが大事だ。土は岩石が1センチできるのに100年かかりできたものなので、そういう視点にたつことが、気象災害や温暖化へ対応する第一歩となる。

〔大和農園／大塚社長〕 青森の農協がメーカーとタイアップしミネラル農法を取入れている。ミネラル農法も分析の結果、足りないものを足す考え方だ。品質も素晴らしく取り入れたいと思っている。当社の圃場は砂丘地であり、夏場の高温でネギの病気が大発生する。長年連作している圃場であり養分が多く施肥量ができるだけ減らそうと思うが、減らしすぎると生育に影響が出るため、その見極めは土壌分析で行いたい。

〔藤岡農産／藤岡社長〕昔からプラウを押しながら作業してきて難儀だと思っていたが、今考えると安定して収量が取れるのは、プラウを活用したやり方でやってきたからと思う。

〔ニューバイオフィーム／齋藤社長〕大変勉強になった。現在、直接圃場をすることはやっていないが、学生のころ土壌学が大の苦手で、先生ともう少し早く会えていたらと思う。

【金田座長】先輩たちの技術を若い人たちに伝承するという話が出たが、自分の水田や畑の中にはこういう状態で養分が含まれている、ということをきちんと記録に残して、後継者に伝えていくことが大事なことだ。土壌分析をしたら記録に残す、それを若い人たちに伝えていくことが財産になる。

最後に、県立大学と法人協会で協定を結んだが、これまでに以上に連携を深めたい。年に1回の放談会もそうだが、もっとフリーな感じでこれまで以上に色々な分野でアドバイスや一緒にやるなど、大きな集まり以外にも連携したい。農業の現場で皆さんがどう考えているのかを、直接学生へ話せ交わるような機会を作りたい。これまで以上に連携を深めることを表明し本日の議論を終了したい。



【開会挨拶】 宮川会長

今日の意見交換では具体的なヒントが出たと思う。内容を取りまとめて日本法人協会へ提出させていただくので、政策提言に活かしていただければと思う。

今日の話を聞いて人それぞれ違うことを感じたと思うが、それはそれぞれの経営の特徴でもある。

向こう一年、協会の活動をよろしくお願いします。



《R2.3末／秋田県農業法人協会事務局まとめ》